

現実と向かい合うインド政治研究

近藤 則夫

現代インドの政治研究は基本的には歴史研究から始まったといえる。そのような伝統の上に欧米の政治哲学や政治学の影響が加わり現在のインド政治研究が成り立っている。インドは巨大な人口を抱え、かつ、文化、言語、宗教、カースト、地域という観点からみて、世界で最も複雑な政治社会であるため（参考文献①）、実証研究では切り口によってバラエティに富む政治研究が生まれ、そのためインド政治研究の全体像をたどるのは至難のわざである。従って、この小論でできることはインド政治研究に携わってきた一研究者の視点から、主としてインドの政党政治研究がどのような軌跡をたどり、そしてどの方向に進もうとしているか、研究の主流をなす英語文献を主にしての点描と若干の展望にとどまる。

●歴史研究からはじまった政治研究

最初に指摘したいのは、実践イデオロギーとしてのマルクス主義を除き、多くの場合、欧米の特殊なイデオロギーや歴史的経験に基づく「理論」はインドの現実を説明するものとしては長年入ってこれなかったという点である。たとえば、ポール・ブラスの「派閥政治論」（参考文献②）や、F・フランケルの「政治経済論」（参考文献③）は高い評価を得ているが、それはこれらの研究が、インドの政治社会の現実に根ざした分析を行っているからであって欧米の「理論」に基づき研究を行ったからではない。このような傾向は、欧米の政治学が世論調査や各種データなどの統計的分析に基づく、より一般性の高い、そしてある意味ではプラグマティックな理論構築を目指すようになっても払拭されたわけではない。

ただし、インドはイギリスの諸制度が移植されたことから、制度論ではインドと欧米の接点は広い。たとえばG・オースティンのインド憲法の研究（参考文献

④）、M・ギャランターの法制度からみた後進階級運動の分析（参考文献⑤）など重要な成果を生み出している。つまり、政治研究はインド特有の現実を直視する部分でこそ優れた成果をだしてきたといえるのである。それは逆にいえば、その時々的重要な政治課題に敏感に反応して現代インド政治研究は成果をだしてきたということを意味する。

たとえば、1960年代中頃まではインド国民会議派（以下「会議派」）が中央でも州でも支配的地位を占め政党政治は「一党優位体制」、あるいは、「会議派システム」といわれたが、その現実を反映して会議派研究はM・ウェイナー、S・コチャネック、R・コターリーなどにより優れた成果を収めている（参考文献⑥、⑦、⑧）。また会議派政権の開発思想であった「社会主義型社会」は計画委員会の設置（1950年）や5カ年計画の策定となって具現化した。官僚制的硬直的統制、非合理性のゆえに次第に欠点が顕わになった。それは国家の経済開発の基本であるだけに、ポリティカル・エコノミーという視点から学問的にも大きな焦点となり、コチャネックやB・R・ナーヤルなどその実態をえぐり出す優れた成果を生み出した（参考文献⑨、⑩）。2014年のインド人民党（BJP）率いる連合政権成立で計画委員会は2015年に、5カ年計画体制は2017年に終わりを告げることになる。

1990年代以降のインド政治の重要な展開はBJPや地域政党の台頭であろう。そこにはヒンドゥー民族主義の台頭、カースト政治の変化、中間層の台頭など互いに関連する構造変化があった。たとえばBJPの台頭はムスリムなど宗教的少数派を圧迫する「コミュニリズム」（宗派主義）およびそれと表裏の関係にあるヒンドゥー民族主義の台頭として基本的に理解される。しかし、C・ジャフレロット（参考文献⑪）など多くの優れた分析ではヒンドゥー民族主義の台頭が、ムスリ

ムや現在「ダリト」と呼ばれるようになった被抑圧階層、また、ダリトよりは社会的疎外の対象とはされていないが、後進的な「その他後進階級」(OBCs)といわれる人々の政治運動と密接に関係していることが示される。これら諸階層の運動に関しては伝統的に優れた分析があるが、ヒンドゥー民族主義の台頭はこの時期にゾヤ・ハサンによるこれら諸階層の運動と会議派の関係を探った研究(参考文献⑫)や、スタ・パイやK・チャンドラのダリトの運動の分析など多くの優れた成果を生み出す契機となったといえるだろう(参考文献⑬、⑭)。

●政治研究の展望

1990年代以降の大きな変化は、経済自由化を契機とする経済変動が引き起こす構造変動である。デリーの途上国研究センターの調査など近年の選挙研究で指摘されるのは、経済や生活レベルの変動が人々の政治意識に变革をひきおこし、政治に構造的変化をもたらしている事実である。長期的な会議派の退潮、BJPの成長、ダリトやOBCs、そして中間層の台頭などの諸現象は、経済発展と人々の暮らしの変化という構造変動と密接に関係すると考えられる。このような構造変化はまだ始まったばかりである。たとえば、都市人口比は3割強であり、これからインドは本格的な都市化、人口移動を経験することになる。インドの政治研究を展望するとき、研究が今後直面しなければならないのは、このようなダイナミックな構造変動である。従って、これからの政治研究、特に政党政治やアイデンティティ政治などの研究は、経済発展にともなう社会変容、ポリティカル・エコノミーの基本的理解なしには十分に進められないのではないと思われる。すでにそのような方向性を示す研究は現れている。たとえば、なぜ貧困層が高カースト・富裕層を代表するBJPに引きつけられるのか研究したタリク・ターヒルの著作(参考文献⑮)はそのような要件を備え、かつ、フィールド調査、文献調査、数量データの統計分析が結合したみごとな分析である。このような研究が今後ますます求められることは間違いない。

(こんどう のりお/アジア経済研究所 南アジア研究グループ)

《参考文献》

① Krain, Matthew, *New Ethnic Fractionalization*

Score (<http://discover.wooster.edu/mkrain/ethnic-fractionalization-data/>), 1997.

- ② Brass, Paul R., *Factional Politics in an Indian State: The Congress Party in Uttar Pradesh*, Berkeley: University of California Press, 1965.
- ③ Frankel, Francine R., *India's Political Economy, 1947-1977: The Gradual Revolution*, Princeton: Princeton University Press, 1978.
- ④ Austin, Granville, *The Indian Constitution: Cornerstone of a Nation*, Bombay: Oxford University Press, 1972.
- ⑤ Galanter, Marc, *Competing Equalities: Law and the Backward Classes in India*, Berkeley: University of California Press, 1984.
- ⑥ Weiner, Myron, *Party Building in a New Nation: The Indian National Congress*, Chicago: University of Chicago Press, 1967.
- ⑦ Kochanek, Stanley A., *The Congress Party of India*, Princeton: Princeton University Press, 1968.
- ⑧ Kothari, Rajni, *Politics in India*, New Delhi: Orient Blackswan, 1970.
- ⑨ Kochanek, Stanley A., *Business and Politics in India*, Berkeley: University of California Press, 1974.
- ⑩ Nayar, B. R., *India's Mixed Economy: The Role of Ideology and Interest in Its Development*, Bombay: Popular Prakashan, 1989.
- ⑪ Jaffrelot, Christophe, *The Hindu Nationalist Movement and Indian Politics 1925 to the 1990s*, New Delhi: Penguin Books, 1996.
- ⑫ Hasan, Zoya, *Quest for Power, Oppositional Movements and Post-Congress Politics in Uttar Pradesh*, Delhi: Oxford University Press, 1998.
- ⑬ Pai, Sudha, *Dalit Assertion and the Unfinished Democratic Revolution: The Bahujan Samaj Party in Uttar Pradesh*, New Delhi: Sage Publications, 2002.
- ⑭ Chandra, Kanchan, *Why Ethnic Parties Succeed: Patronage and Ethnic Head Counts in India*, Cambridge: Cambridge University Press, 2004.
- ⑮ Thachil, Tariq, *Elite Parties, Poor Voters: How Social Services Win Votes in India*, Delhi: Cambridge University Press, 2014.